

平成 31 年 4 月 24 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03796

研究課題名(和文) 近世～近代における尾道・橋本家の研究 瀬戸内有力資産家と地域経済

研究課題名(英文) Old Money in early modern and modern Japan: the case of the Hashimotos in Onomichi

研究代表者

田島 佳也 (Tajima, Yoshiya)

神奈川大学・私立大学の部局等・名誉教授

研究者番号：40201610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：成果は種々あるが、例示すると、従来橋本家は近代になると企業家として活動したという理解であったが、明治前期に第六十六国立銀行を設立したのは、天保期に広島藩の要請のもとで、尾道湊で活動する諸商人らへの融資を目的とした諸品会所などを継承するものとして、「社会の公器」としての金融機関の設立を他の有力尾道商人と協動的に設立したものであった。それは直接的な利殖目的ではなく地域経済への配慮によるものであり、それは地域における伝統的名望家としての自家の地位を維持することであった。尾道では前近代から陸海の交通の要所として諸商人が活動したが、こうした名望家的資産家の活動が地域経済を支える重要な役割を果たしていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

名望家的地方資産家について学界で議論がなされているが、なぜ名望家的行動をとるか、いいかえればなぜ一見自己犠牲的経済行動をとるのか説明されないし、名望家的行動とは、地域企業に投資するだけでなく、投資しないことも含まれる。また戦前日本の銀行について、機関銀行問題があるが、しかし逆に、経営銀行が機関銀行化するのを恐れて、個人投資を抑制し、また慎重な銀行貸出によって、結果として安定的な経営を行った銀行家も多かったのではないかと。さらに地域経済において、このような名望家的資産家の役割は小さくないが、資産家の行動が自己犠牲的なのか否かは、個別に慎重に分析する必要がある。

研究成果の概要(英文)：Many results of this research were achieved. For instance, though it was thought that Hashimotos became an entrepreneur in the early Meiji Era, their economic activity was not for direct moneymaking, but for regional economy. That is, in the Tenpou Era Shoshina Kaisho was built for financing to merchants of Onomichi port and town by influential merchants in this town including Hashimotos upon the Hiroshima clan's request. And, in the early Meiji Era a larger financial institution for Onomichi merchants became necessary as a successor of Shoshina Kaisho. That is the reason why Onomichi the 66th National Bank was built by the same potent merchants like Hashimotos. In Onomichi town, many merchants were active because this town had been the important position for marine and land transportation from pre-modern times. Their activities and regional economy were supported by old money such as Hashimotos.

研究分野：近世日本経済史

キーワード：地方資産家 名望家 塩田経営 銀行経営

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) 資産家・有力商人研究の近年の動向は、石井寛治・中西聡編『産業化と商家経営』（名古屋大学出版会、2006年）に代表されるように、株式投資などを通じていかに産業発展を促進させていったかといった点に焦点が当てられてきた。それは、日本の資本主義発展の特徴の究明といった問題意識からいわば当然ではあるが、そのような多額の有価証券投資を行えた資産家・商家は、大都市などの著名な有力商人や大地主にはほぼ限られている。したがってより一般的な中小規模である大部分の資産家の研究視角は別のものであるべきである。

(2) 本研究の分析対象である瀬戸内地域の資産家は、豊かな地域にもかかわらず、従来研究が乏しかった。従来も瀬戸内地域を対象とした地主制史研究は、有元正雄や太田健一らにより少なからず行われてきた。また本研究分担者である落合により食塩流通の研究（落合功『近代塩業と商品流通』日本経済評論社、2012年など）はなされてきた。しかし資産家の諸事業や塩田経営に関する研究そのものは意外に乏しかった。橋本家が本拠とする尾道は中世以来廻船の寄港地などとして物流の拠点となり、北部後背地や南部島嶼部は豊饒な農水産業それを基盤とした畳表・綿織物・清酒・造船などの在来産業が興隆し、明治前期までは安芸を凌ぐ広島県の経済的中心だった。

#### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、現広島県尾道市に本拠を持っていた、近世から近代における有力資産家橋本家の塩田経営・不動産業・個人金融業・銀行業等の事業分析を通じて、瀬戸内地方都市の資産家経営と地域経済の諸相を明らかにすることにある。

(2) 具体的には、第一に資産家経営の発展・変容過程の分析、第二に同家の個人金融業・銀行史料による都市経済と農漁村経済の分析、第三に塩田その他の不動産関係史料による土地問題と地方都市の形成・変容過程の分析である。この場合、地域経済とは、地方都市・尾道と島嶼部を含む周辺農漁村経済の双方を包含する。これらを通じて、第二次大戦後における備後地域の経済発展を準備する要素を析出することをめざす。

#### 3. 研究の方法

(1) 広島県立文書館所蔵の一次史料を調査、デジタル化し、入手した基礎資料の整理・分析を行う。

(2) 広島県立図書館・尾道市立図書館・国会図書館等を調査し、関係資料の収集・分析を行う。

(3) 研究分担者・研究協力者とともに研究会を開き、研究方法の討論・確認を行い、成果の共有化を図る。

(4) 尾道市史編さん室との協力・連携関係に基づき、史料及び情報収集・情報交換を行い、かつ尾道および周辺の現地調査を行う。

#### 4. 研究成果

(1) 従来橋本家は近代になると企業家として活動したという理解であったが、明治前期に第六十六国立銀行を設立したのは、天保期に広島藩の要請のもとで、尾道湊で活動する諸商人らへの融資を目的とした諸品会所などを継承するものとして、「社会の公器」としての金融機関の設立を他の有力尾道商人と協動的に設立したものであった。それは直接的な利殖目的ではなく地域経済への配慮によるものであり、それは地域における伝統的名望家としての自家の地位を維持することであった。尾道では前近代から陸海の交通の要所として諸商人が活動したが、こうした名望家的資産家の活動が地域経済を支える重要な役割を果たしていた。

(2) 橋本家は明治中期以降大正期にかけて、銀行経営を続ける一方、地元地域の企業にはあまり投資せず、中央株や安全とみなされた公社債、市街地などに投資した。したがって従来研究史で注目されてきた利回りは悪くても地域企業に投資を行う名望家的資産家とはいえない。しかしこの行動の背景には、リスクのある投資によりダメージを受け、経営する銀行に悪影響が及ぶことを恐れたことがあった。その意味では、やはり名望家的資産家といえる。

(3) 銀行経営においても、きわめて堅実さを維持し、金融恐慌などでも揺らぐず、地域経済の動揺は相対的に少なかった。この伝統的経営体質は、同家が頭取を務め続ける継承銀行の戦後の広島銀行にも受け継がれていった。こうした堅実な銀行経営はあまりに慎重な貸出のために、地域の経済成長を抑制したかもしれず、功罪両面あったであろう。しかし戦前日本の銀行は、機関銀行問題が取りざたされたとはいえ、このような銀行家もまた多かったのではなからうか。

(4)明治大正期の全国における広島県、および県内における尾道の経済的地位の動向などを諸資料から分析する作業も行った。その結果、広島県の地位は向上してゆき、他方尾道の県内地位は一貫して低下していくことがわかった。呉市も必ずしも地位を上げていくわけではなく、広島市と福山の地位の向上が著しかった。

(5)さらに『日本全国諸会社役員録』などの資料の分析から、尾道における企業家ネットワークが検出され、橋本家・天野家・島居家などの有力商人グループとは投資・経営行動をともにしない有力資産家・銀行家もあり、興味深い論点が潜んでいるように思われた。この点の追及は、今後の課題でもある。

(6)明治前期の橋本家塩田直営における浜子の労働形態を賃金関係の史料から分析した。すると、基本的に飯米は支給されたから日常的な食料は不自由しないものの、前金を前提に日常的に金銭・米代などを貸与していた。恒常的な貸与は、結果として貸越となり、翌年への浜子への強制力となったはずである。

## 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

松村 敏、近代日本における名望家的地方資産家の存在形態 広島県尾道・橋本家の事例、商経論叢(神奈川大学経済学会) 査読無、53巻4号、2018、109-147

[https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=12125&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=12125&item_no=1&page_id=13&block_id=21)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：坂根 嘉弘

ローマ字氏名：Sakane Yoshihiro

所属研究機関名：広島修道大学

部局名：商学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 00183046

研究分担者氏名：落合 功  
ローマ字氏名：Ochiai Kou  
所属研究機関名：青山学院大学  
部局名：経済学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：10309619

研究分担者氏名：松村 敏  
ローマ字氏名：Matsumura Satoshi  
所属研究機関名：神奈川大学  
部局名：経済学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：60173879

(2)研究協力者

研究協力者氏名：西向 宏介  
ローマ字氏名：Nishimukai Kousuke

研究協力者氏名：越智 信也  
ローマ字氏名：Ochi Shinya

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。